

まち地域づくりファイル

大崎市流地域自治組織による、地域や地区の特性を生かした個性あふれる地域づくりを紹介いたします。

6 古川地域 高倉地区振興協議会

高倉地区の「これから」を考えるワークショップ 始動中！

地域一体で課題に向き合うことが出発点

少子高齢化に伴う若者のコミュニティ参加不足、空き家の増加などの課題は、多くの地域が直面しています。時代とライフスタイルの変化とともに、地域包括ケアの仕組みづくりや、地域づくりの革新が求められてきています。

高倉地区振興協議会では、そういった課題に対し危機感を募らせる中で、さまざまな立場や世代の住民から率直な意見を聞き、高倉地区流の解決策を見いだそうと、ワークショップが行われています。



▲話し合いからどのような取り組みが生まれるか、これからの楽しみです

12月、1回目の開催日はあいにくの雪模様。参加者不足が危ぶまれましたが、開始時刻の19時には、平日にもかかわらず、20代～60代の60人を超える住民で会場はいっぱいとなりました。地域をより良くしようという住民の一体感や関心の高さは、他に誇れる特色であり、普段から住民間の交流が盛んである証拠かもしれません。

ワークショップでは、それぞれに地域の良いところ、困っているところなどの意見を出し合い、世代を超えた活発な話し合いとなりました。このワークショップは2月に最終回が行われ、今後の地域づくりの出発点となります。

自慢の響きは全国へ！伝統芸能の継承

高倉地区には、「やのめ矢目踊り」と「ひこばえ高倉薬太鼓」、2つの伝統芸能が受け継がれています。

特に、高倉薬太鼓は、約30年前に住民の交流を深めようと始まった事業で、地域を代表する伝統芸能

です。地域行事をはじめ、市内外のさまざまな催しで披露される迫力の演奏は、日本太鼓ジュニアコンクール(主催: 公財 日本太鼓財団)全国大会に4年連続出場を果たすほどの腕前です。そのレベルの高さは、演奏を楽しみにしている地域住民の応援が支えています。



▲高倉まつりで披露された高倉薬太鼓。見事な演舞で会場を魅了しました。

地域の交流が景観美や賑わいを作り出す

高倉地区を南北に走る県道158号坂本古川線は、古川・加美・仙台方面に行き交う車で交通量が多い通りです。通行人の心の癒しと景観美のため行われている「花いっぱい運動」は、その「思いやり」が評価され、昨年、「みやぎ花のあるまちコンクール」で審査員特別賞を受賞しました。



▲小学生から80歳まで総勢60人で、3000本の花を沿道に植えつけます。

また、振興協議会が主催する「高倉まつり」は、地区の一大イベントとして毎年賑わいをみせます。昨年11月の開催時には400人の住民が集まり、伝統芸能の演舞やチャリティーバザーなどで交流を深めました。

振興協議会の高橋靖明会長は、「地域課題は多く、住民のよりどころが地区公民館のみになる日がくるかもしれない。地域行事やワークショップでの交流を通じて、よりよい将来像を描いていきたい」と今後の抱負を話してくれました。



社名 アルプス電気株式会社
古川工場、古川開発センター
所在地 古川中里六丁目3番36号
代表者 代表取締役社長 栗山 年弘
設立 昭和23年(昭和39年古川工場稼働)

今年で創立70期を迎えるアルプス電気株式会社は、日本を核に、世界各国(地域)で電子機器の開発、生産、販売を展開しています。

古川工場は昭和39年に稼働し、古川開発センターは、国内7カ所の工場の中でも特に技術部門が集結した一大拠点として、開発、生産の一貫体制で「価値ある製品」の創出を支えています。車載用部品とスイッチ類を主製品として、わたしたちの日常生活で身近なスマートフォンやゲーム機の電子部品なども作られています。

海外での売り上げが多く、国内外問わず実力を発揮できる人材を育成しようと、海外現地法人などに社員を派遣し、実務、実習を通じて学ぶ「海外トレーニー制度」に力を入れています。

また、働き方改革の一環として、部署ごとに業務量の統計をとるなど、働きやすい環境づくりへの改善にも取り組んでいます。

入社6年目になる磯部良さんは開発センターのM5技術部に所属。自動車向けのリモコン(キーレスエントリー)やシステムの設計をする部署で、主にスイッチと車載用部



▲ 山下 絢子さん



▲ 磯部 良さん

品の電気回路の設計を担当しています。

製品は顧客提案から始まり、試作・評価を繰り返し、量産までには3〜5年もの期間がかかるそうです。

担当する製品の回路図を描き、基盤として仕上げていきますが、顧客の要求に添えるため日々勉強であると言います。納期が厳しい場面でも部署を越えた協力によって納品できた時は、より達成感を味わえるそうです。

今後は「新しい製品に取り組み、自分らしさが発揮できる仕事を増やしていきたい。また、海外での経験を積みながら、自身が成長できる環境に身を置き、意思を持って仕事をしたい」と話してくれました。

入社5年目の山下絢子さん

時には複数車種の製品を並行して取り組まなければならない時期もあるそうですが、「仕事の幅を広げるため英語を学ぶこと、他部署の仕事や製品開発にも携わりたい」と意欲を話してくれました。

現在は、ソフトウェアをから作り上げることに仕事のやりがいを感じながら、次期モデルを手掛けているそうです。

約4万種類の電子部品を開発・製造、販売するアルプス電気。そこには確かな技術、そして豊かな環境と人材があり、日々「美しい電子部品が生み出されています。」